

【①改築】総合的な浸水対策及び海岸侵食対策（防災・安全）

1. 目標

【現 状】

- 地球温暖化等に伴う気候変動により、近年記録的な集中豪雨が多発するなど、県内においても度々水害に見舞われている。
- 浸水対策は、県民の生命と財産を守り、安全で安心な地域づくりに寄与する重要な施策であるが、未だ要改修区間における河川整備率は低い状況。
- 河川改修事業を推進するには膨大な時間と費用を要することから、迅速かつ的確な避難判断に資するソフト対策を合わせて、人命と財産を保全するための効果的な対策が求められている。
- 整備された管理ダムや、樋門・樋管などの河川構造物について、適切な維持管理・更新を行うため、長期的視点を踏まえ、より効果的・効率的に保全対策を実施する必要がある。
- 冬期風浪等で、浸食が進んでいる海岸では、国土の保全、沿岸の安全・安心の確保のための対策が必要である。

【目 標】

«河川・ダム事業»

- ハード対策
河川改修、河川管理施設の改築、堰堤改良等を効果的に行うとともに、河川管理施設等の長寿命化対策を行うことで、防災機能の継続的な発現を図る。
- ソフト対策
防災情報基盤の強化・拡充を行うことで、人命及び住宅や土地等の財産を水害から守る。

«海岸事業»

- 冬期風浪により被害が発生している地域について、ヘッドランド工等の海岸保全施設を施工し、安心安全な生活の確保を図る。



▼計画の成果目標と実績

計画の成果目標		R1	R3	R5	実績
河川	河川改修、特定構造物改築、堰堤改良等により保全される、想定氾濫区域内等の被害軽減	3,794億円	3,991億円	4,057億円	4,061億円
	河川情報システムにおける情報収集・発信機能の拡充のために機能拡充が必要な箇所数	105箇所	82箇所	60箇所	0箇所
海岸	海岸侵食が著しく被害を受けている海岸において、概ね30年に1回程度の発生すると予想される規模の高波浪による侵食に対し、安全性が確保されていない地域の面積	89ha	80ha	71ha	71ha

2. 事業の内容

- 事業期間：平成31～令和5年度(5年)
- 事業の主な内容
 - 基幹事業
 - ①ハード対策 河川改修、管理ダム・河川管理施設の長寿命化対策、海岸保全施設整備
 - ②ソフト対策 河川監視システムの改良
 - 効果促進事業 洪水浸水想定図作成・洪水ハザードマップ作成
- 事業実施主体：山形県、山形市、舟形町、新庄市、南陽市、川西町、鶴岡市、大石田町、最上町、高畠町、西川町、真室川町、鮭川村、小国町、天童市、庄内町
- 箇所数と事業費：

区分	基幹事業	効果促進事業	計
河川	69箇所 307億8,800万円	16箇所 2億3,800万円	85箇所 310億2,600万円
ダム	16箇所 68億600万円	—	16箇所 68億600万円
海岸	3箇所 17億1,000万円	—	3箇所 17億1,000万円
計	88箇所 393億400万円	16箇所 2億3,800万円	104箇所 395億4,200万円

3. 事業による成果

«河川事業・ダム事業 ハード対策»

- 河川改修、河川管理施設の改築、堰堤改良等、段階的な整備目標を掲げるなど効果的に改修を進めた結果、沿川の治水安全度の向上が図られ、目標を達成。

«河川事業・ダム事業 ソフト対策»

- 各総合支庁における河川情報システムの機能拡充について、予定していたスプリアスの交換を順次進めた結果、すべての整備が完了したことにより、目標達成。

«海岸事業»

- 比子地区海岸の侵食対策において、計画どおり施工を進めることができた結果、目標を達成。

4. 評価と今後の対応

河川事業、ダム事業および海岸事業ともに着実な整備推進により目標を達成し、治水安全度が向上している。このため、計画全体としては目標を達成したと評価できる。

一方で、令和2年7月、令和4年8月、令和6年7月など県内各地で記録的大雨が多発している。今後も浸水対策や海岸侵食対策等に必要な予算確保に努め、要対策箇所における事業進捗を図り、災害に強く、安全で快適な暮らしを守る県土づくりを推進していく。